

科目名	担当者名	配当	期	単位
刑事訴訟法	松本英俊	【既修2必】 1必	前期 後期	2

■講義内容■

授業は、刑事訴訟手続を概観した後、捜査段階における重要なテーマについて、手続の流れにそって捜査の端緒からそれぞれの項目ごとに検討していく。公判段階については証拠法を中心に重要なテーマについて検討する。そこでは、手続の各段階相互の関連や主要課題の手続全体における位置づけも含めて、手続の全体像を把握し、刑事訴訟法の基礎知識を身につけることになる。

■シラバス■

<科目のねらい>

受講者が刑事訴訟手続の全体像及び刑事訴訟法の重要な基本的知識について理解・習得し、憲法及び刑事司法の原理原則をふまえた法的思考を身につけることを目標とする。講義においては、刑事訴訟手続の全体を概観したうえで、手続の流れにそって各段階における主要判例を素材とした基本問題を検討し、問答方式による双方向的な対話・討論型の授業を行う。各回の講義計画は以下のとおりである。

<科目の内容>

第1回 捜査の原則

捜査から公判までの刑事手続の大枠を概観したうえで、捜査手続の諸原則について検討し、刑事手続を検討する際の視点を明らかにする。

第2回 捜査の端緒

任意捜査と強制捜査を巡る問題を中心に、捜査の端緒について検討し、捜査の全体像と基本理念を理解する。

第3回 身体の拘束

令状主義、逮捕・勾留の意義を検討し、逮捕・勾留を巡る諸問題、別件逮捕・勾留の問題について検討する。

第4回・第5回 証拠収集

搜索・差押えの問題を中心に証拠の収集を巡る諸問題について検討する。

第6回 取調べと被疑者の防御権

取り調べに関する重要な問題を通して、被疑者取調べの意義や取り調べに対する法的規制、黙秘権の保証、接見交通権について検討する。

第7回 公訴提起

公訴権の内容やその抑制、公訴提起の手続、訴因の特定に関する問題について検討する。

第8回 訴因

訴因変更を巡る問題を中心に検討し、その要件等を理解する。

第9回 公判準備と公判前整理手続

公判前整理手続を中心に、証拠開示を巡る問題を検討する。

第10回 証拠法総説

証拠法の基本原則について検討し、証拠法の全体像について理解する。

第11回 違法収集証拠の排除

違法収集証拠の排除法則について、その評価や基準などを理解する。

第12回 自白の任意性

自白法則に関する重要な問題の検討を通して、取り調べや自白の意義との関連なども含めて検討する。

第13回・第14回 伝聞法則

伝聞法則の基礎やその意義、伝聞例外について検討し、伝聞証拠を巡る諸問題を検討する。

第15回 定期試験

<教科書>

三井誠・酒巻匡著『入門刑事手続法 [第5版]』（有斐閣、2010）

他の概説書・基本書でも可

<参考書>

井上正仁編『刑事訴訟法判例百選 [第9版] <別冊ジュリスト 203>』（有斐閣、2011）